

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)



8

2008

Contents

■ 巻頭言	
“オシムの言葉”を読んで薬学を考える 東京理科大学薬学部教授 寺田 弘	2
■ インフォメーション	
講演会開催のご案内 テーマ『日本における医薬品の研究開発』	4
「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版2008年7月」 7月末発売!	4
「JAPIC 医療用医薬品集2009」/「JAPIC 一般用医薬品集2009」 9月発売!	4
新刊 7月末発売 「病名適応医薬品集2008-病名から薬がわかる本-」	5
「日本の新薬-新薬承認審査報告書集-」26~30巻 発行しました	5
「重篤副作用疾患別対応マニュアル」第2集 発行しました	5
■ トピックス	
病院DI担当者にとって利用価値の高いJAPICデータ提供サービス 栃木県済生会宇都宮病院薬剤部 小林 義美	6
くすりの散歩道 No.14 医薬品と食品の相互作用 (財)日本医薬情報センター 宇賀神 正代	7
院内採用医薬品集作成システム(JAPIC PIA)機能追加!	9
「理事会」「評議員会」の概要報告	10
平成19年度事業及び収支状況の概要	10
■ 図書館だよりNo.218	12
■ 情報提供一覧	12

No.292

“オシムの言葉”を読んで 薬学を考える

東京理科大学薬学部教授

JAPIC理事 寺田 弘 (Terada Hiroshi)



1. オシムの言葉

サッカーを野原でボールをけり合うスポーツぐらいにしか認識していなかった私がオシム監督に注目し始めたのは、日本代表の監督としていろいろな談話が社会面の記事として引用されるようになってからのことであった。ウイットに富みながらも警句とも思えるその内容は、しばしば挑発的でもあり、それ故に埋もれていた私の感性を刺激することが多かった。“試合に勝つことが目的ではなく、その過程が重要である”という主旨の発言は、“勝つことが目的ではなく、参加することに意義がある”というオリンピック精神よりも遙かに積極的であり、“私は優勝するために来ました”という、ある有名監督の言葉を薄っぺらなものにしてしまった。その頃から、彼はいったいどの様な人物なのであろうかという興味を持ちはじめたが、最近発刊された木村元彦氏による“オシムの言葉”を読むに至り、なんとすごい人物なのであろうかと、一層深い感銘を覚えるに至った次第である。

2. 休むのは引退してから

オシム監督のしごきは有名である。兎も角“走れ、走れ”で、肉離れした選手には、“ライオンに追われたウサギは肉離れをするのか?”と準備不足を批判し、“プロは休まない。休むのは引退してからだ。”と、連日練習に明け暮れさせるという猛烈ぶりであった。当然選手からは不満の声があ

がってきたが、それを打ち消したのが、“自分たちはこの頃強くなっているのではないか”という認識と、それを可能にしているのは圧倒的な走力であるということに気がついたからであった。

彼の練習は、フルコートで3対3、ハーフコートで1対1という常識を覆すものであり、常に自分の動作がどのように相手の出方に影響を与えるかを瞬時に判断し対処することを要求した。目の前に起こっていることのみを気に奪われることなく、全体の展開をも視野に入れることの重要性を指摘した。すなわち、一つ一つの動作を総合的な視野で理解し、行動することの重要性を身につけることに重点を置いていたようである。私が感銘を受けたことの1つは選手たちが、試合中に、“この場面はあのときに練習した通りの展開になっている”ということに気がついたということである。つまり、選手はオシム監督の指導が適切であり、“先を読んでいた”ということに気がつくのである。これは重要なポイントであって、研究室においても、研究(練習)に明け暮れている若い研究者が実験の際にこの様なことに思い当たるならば素晴らしい。適切な指導とはかくあるべきことではないか。

この様な厳しい練習の一方で、“負けてもいいから自分たちのサッカーを思い切りやれ”と選手を激励し、スポーツ

記者に対しては“人間は誰でもミスをする”と選手をかばうとともに、“勝ち負け以上に大切なものは、しっかりとしたサッカーをしているチームがあるということを知ってもらいたい”と要望している。この発言は“勝つことが目的ではない”という上述の発言と同じ考えに基づいていることはいうまでもない。

3. 試合は一人ではできない

さらに、“サッカーの試合は、人生と同じく一人では成立しない”という発言は意味深長である。この言葉は、チームプレーの大切さを重視する、“優れた技術を持つ、個人としては優秀な選手が1つのチームに固まっていたらチームは成り立たない”という主張にも連なる。チームプレーが行えないと勝利を得ることは難しいというわけである。

偶然なことかもしれないが、プロ野球のセントラルリーグにおいては本塁打を断然多く打っている巨人や横浜よりも、本塁打数の最も少ない阪神が首位を独走している。個々のユニットがいくら良くても、勝利には必ずしもつながらないということである。ユニット間の連結（繋ぎ）が重要であるゆえである。

4. 薬学のおしむ監督

おしむ監督の発言には共感を覚えることが多いが、これを自分自身の行動に投影したときには、いささか考え込んでしまう。彼は故国において数学の教授として囑望されてもいたというが、さすがにその指導は論理的である。しかしその意図を前もって明かすことはしないで、練習や試合中に気づかせるという方法をとっている。この方が効果的であり、選手の優劣も判断できる。

研究グループには研究テーマに関する先見性とそれを実現する適切な処置を迅速に行うことが要求される。グループ構成メンバー個人個人が、自分の果たすべき役割の持つ意義をきちんと理解し、研究を迅速に展開することができるならば、克服するハードルがいくら高くても挑戦する価値

を見出すことができる。“理想は高く態度はでかく”という図太さが重要ではないか。

サイエンスは普遍性（法則性）があるが故に没个性的で、我々の生活向上には無力とも思える場合が多い。これに力を与え有効なものにするには技術が必要である。サイエンスを基礎において、技術を開発し駆使することによってサイエンスは新たな段階に発展し、力を持つことができる。

新しい薬学教育制度が始まって、実務自習が重視されるようになった。それはそれで意義あることではあるが、定められたプロトコールに従った実習を積み重ねるだけでは、技術は発展しない。単なる繰り返しの過ぎない。薬学の学生は勉強好きであるように見えるが、単に試験に合格するための学習であるならば、問題解決には全く役立たないのと同様である。個々のユニットのレベル向上を目指す技術習得ばかりでなく、ユニット間の連結を可能にする技術の開発を目指すべきである。技術は个性的であり、力強くあらねばならない。それをサイエンスに還元することができるならば、サイエンスはより強いものに発展するであろう。薬学の活性化と発展のために、“薬学のおしむ監督”が数多く現れることを切に希望している。

Information インフォメーション

講演会 開催のご案内

テーマ『日本における医薬品の研究開発』

〈日本の新薬－新薬承認審査報告書集－全30巻出版記念講演会〉

この度、「日本の新薬－新薬承認審査報告書集－」全30巻発行を記念して「日本における医薬品の研究開発」をテーマに講演会を開催することといたしました。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時・会場 2008年9月11日(木) 14:00～16:30 東京ウイメンズプラザホール(東京都渋谷区神宮前5-53-67)
<http://www.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/contents/map.html>

参加費 無料

申込方法 JAPICホームページからお申し込みください。(先着300名)

プログラム 13:00～ 受付開始
14:00～14:10 主催者挨拶
14:10～15:10 企業からみた高脂血症・動脈硬化治療薬の研究開発と将来展望 興和株式会社 東京創薬研究所長 澤登 公勇 先生
15:10～15:30 休憩
15:30～16:30 抗生物質の現状(仮題)

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 新薬審査第一部 審査役 佐藤 淳子 先生

7月末発売! 「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版2008年7月」

本DVD-ROM/CD-ROM(Win・Mac両対応)の仕様は次の通りです。

- ◆ **収録データ**：医療用医薬品データ/平成20年追補収載までの添付文書情報・識別コード及び薬価データを収録。
一般用医薬品データ/2008年6月までのJAPIC入手添付文書に基づくデータを収録。
- ◆ **価格**：1枚15,000円(税・送料込)で提供いたします。年間セット25,000円等お得なセットもありますので詳細はお問い合わせ下さい。

9月発売! 「JAPIC 医療用医薬品集2009」(検索用CD-ROM付) 「JAPIC 一般用医薬品集2009」

“JAPICの医薬品集”は医薬品情報の基本といえます。この機会に、ぜひ買い替えをご検討ください。

“JAPIC医療用医薬品集2009”の特長

- ◇2008年7月薬価基準追補収載分までの医療用医薬品を網羅(約17,000製品)。
- ◇医療用薬・一般用薬・医療用薬識別コード情報等を収録したCD-ROM*を添付。
- ◇薬剤識別コード一覧(無償)、更新情報[シール(有料)、web版(無償)]を提供。
- ◇価格は据え置き13,650円(税込)。

*：JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版2008年7月版を検索・データ閲覧・印刷機能に限定したもの。

“JAPIC一般用医薬品集2009”の特長

- ◇2008年4月実施の一般用医薬品調査に基づく最新の網羅性の高い情報を収録(約12,000製品)。
- ◇上記調査に基づき製品ごとの“一般用医薬品のリスク区分”を掲載。
- ◇各製品の組成・効能効果・用法用量を掲載すると共に、薬効ごとの「使用上の注意記載要領」を記載し、一部製品の「使用上の注意」を収録して添付文書記載内容を網羅するよう編集。
- ◇付録として配置販売品目指定基準・一般用医薬品のリスク区分一覧(成分)・ブランド名別成分比較表を収録。
- ◇価格は据え置き9,450円(税込)。

新刊 7月末発売! 『病名適応医薬品集2008—病名から薬がわかる本—』

この度、標準病名に対応する医薬品がわかる「病名適応医薬品集2008—病名から薬がわかる本—」を発刊することとなりました。先に医薬品の効能効果と標準病名を対応させた「添付文書記載病名集」を発刊した際、「添付文書記載病名集」とは逆に病名から適切な医薬品がわかるような本も欲しいとの強いご要望をいただいております。

そこで本書では、JAPICが蓄積してきたデータを基に、標準病名に対応する医薬品を一覧表にまとめ、さらに同義語・関連語の病名と標準病名をリンクさせた「病名・医薬品・効能効果一覧」を収録いたしました。それに加えて、商品名を一般名ごとにまとめて、局方医薬品、後発医薬品をマークした「一般名別商品名リスト」を収録しました。これにより単なる逆引き「添付文書記載病名集」ではない書籍となりました。レセプトチェック等の実用参考書のみならず、個々の医薬品をまとめた書籍としてご利用いただけます。

◆掲載内容

[1] 病名・医薬品名・効能効果一覧

診断した病名が標準病名(レセプト記載病名)ではどのようになっているのか確認できます。標準病名はレセプト電算コード、ICD10コードに対応しています。標準病名ごとに、一般名・商品名・効能効果が表形式で一覧出来ます。処方された医薬品の効能効果との関連性を確認し、妥当かどうか判断する目安になります。

[2] 一般名別商品名リスト

先発品と同じ効能効果を持つ後発品等が確認できます。 B5判、約1,000頁、7,770円(税込)

「日本の新薬—新薬承認審査報告書集—」26~30巻 発行しました

本書は独立行政法人医薬品医療機器総合機構で行われた新医薬品の承認審査の報告書(以下審査報告書)をまとめて編集したものです。平成19年1月~11月までに承認・公表された59品目を承認月順に収録したもので、26~30巻の5分冊にまとめました。

各巻は成分名の五十音順に配列され、訂正のある報告書については、1~25巻同様本文中に修正前と修正後がわかるように編集してあります。昨年5月に発行いたしました「日本の新薬」21~25巻(平成18年1月~10月承認分を承認月順に収録)に引き続いての刊行となり、全30巻では461品目を収録いたしました。なお、1~20巻(平成10年~平成17年承認分)は、薬効別で収録しています。

製薬企業ユーザーの新薬承認申請の際の参考資料として、大学の医薬品情報およびレギュラトリーサイエンス教育用の教材・資料としてご活用いただけましたら幸いと存じます。

◆価格

B5版	1~30巻各巻	23,100円(税込)
	1~30巻セット	346,500円(税込)
	21~25巻セット	57,750円(税込)
	26~30巻セット	57,750円(税込)

◆購入方法

JAPICホームページ入力フォームからお申し込みください。

「重篤副作用疾患別対応マニュアル」第2集 発行しました

第1集に引き続き、(社)日本病院薬剤師会の協力のもと「重篤副作用疾患別対応マニュアル」第2集(10マニュアル)を発行しました。本マニュアルは厚生労働省の重篤副作用疾患総合対策事業として、平成17年度から4年間の計画で作成されているものです。

第2集収録の10マニュアルは以下のとおり。

- ◎非ステロイド性抗炎症薬による蕁麻疹/血管性浮腫◎喉頭性浮腫◎血管性浮腫◎アナフィラキシー◎偽膜性大腸炎
- ◎消化性潰瘍◎麻痺性イレウス◎薬物性肝障害◎悪性症候群◎薬剤惹起性うつ病

◆平成20年7月25日発行、定価1,680円(本体1,600円+税)、B5版、約250頁

◆JAPIC会員特価 1,512円/1部

会員の皆様には業務担当者宛に1部お送りしております。ご購入は事務局業務・渉外担当までお願いします。(TEL 0120-181-276)

T トピックス TOPICS

■ 病院DI担当者にとって利用価値の高いJAPICデータ提供サービス

— JAPICユーザ会に参加して —

栃木県済生会宇都宮病院薬剤部 小林 義美 (Kobayashi Yoshimi)

私が勤務している病院は、救急救命センターを併設した、644床の急性期を担う地域中核病院です。私事ですが、今年の4月にDI業務担当課に異動となり、日々押し寄せる医薬品に係わる情報と担当業務に関する過去、現在、未来の情報の渦に翻弄されながら、とにかく何とかこの2か月間を過ごしてきたところです。そして、最初の出張命令がこのJAPICユーザ会となったわけです。

正直、DI業務を担当して2か月間の間にJAPIC関連情報に触れる機会はさほど多くはありませんでした。週一でFAX送信されてくる医薬関連情報・速報と会員特典の医薬品集等の各種書籍を手にしたことぐらいでしょうか。10数年前にJAPIC医薬情報講座を受講し、当然JAPICの存在もその業務内容も知っているつもりでした。たまたま、今回参加する数日前に文献検索の必要な状況となり、JAPICの医薬品情報文献検索システムを利用すべくホームページを訪問しID/パスワードの登録が必要を知り、早速登録の入力をして参加前日に登録できたというような状況です。このような人間が、JAPICユーザ会の参加記を書くこと自体おこがましく、お恥ずかしい限りですが、その辺の状況を見透かしての原稿依頼ではなかったかと思うのは考えすぎでしょうか。

さて、このような右も左もわからぬ状況での参加となったわけですが、私にとっては大変タイムリーな内容であったので、知っているつものぼんやりとした状態から、JAPICで働く人の姿が想像できるぐらいの実体のあるものに変わったと感じています。

本ユーザ会での事業報告で紹介されていたiyakuSearch Plusや医薬品類似名称検索システムは、今

後の業務遂行にとって利用価値の高いシステムと感じましたし、様々なデータ提供サービスがあることを知ることができました。特に、いま直面している院内医薬品集作成に関しては、院内採用医薬品集作成システムの利用を検討したいと思っています。医薬品類似名称検索システムについても、実は最近、県内での土屋文人先生と澤田康文先生の二つの講演会それぞれにシステムの紹介がされていて興味を持っていたところでした。DI業務担当者の役割として院内の薬事委員会の事務局業務も担当しています。その委員会の主たる業務となる新規院内採用薬の審議の際、既存採用薬の名称との類似性を評価することが医療事故防止の観点から求められているところであり、このシステムを利用しない手はないと思っています。



病院薬剤師としてDI業務を担当する部署に配属されていなくとも、常にすべての業務の中で日々医薬品情報を収集し、伝達、提供することを繰り返し行っているわけですが、日常業務の中ではその情報源としてデータベースを利用するところまではなかなかいかないとい

うのが現状で、最後は製薬メーカーに丸投げしてしまうこともままあるわけです。DI業務を専任として担当するようになってさえもこれまでの状況とさほど変わってはいないのですが、これまで医薬品情報の検索収集、そしてそれを整理し評価するスキルを自己研鑽してこなかったことへの深い反省と後悔をエネルギーに換えて、職責を全うしようと前向きに考えています。こんな新米DI担当者でも薬学実習生への指導を行わなければならないのですが、あらためて医薬品情報の基本を振り返

るいいチャンスでもあります。

実習生へのレクチャーの中で、インターネットを介した情報収集の方法を紹介する際JAPICの説明もしています。JAPICの方が聞いたら笑うか、笑いを超えて怒りだすかもしれません……。やっとなんか本当の意味でのJAPICとのお付き合いが始まるのだと感じています。これからも、新米DI担当者にも利用価値の高い情報提供サービスをお願いいたします。

くすりの散歩道 NO.14

医薬品と食品の相互作用

(財)日本医薬情報センター 添付文書情報担当 宇賀神 正代 (Ugajin Masayo)

最近アレルギー体質の子供も多く、普段の食生活に気を遣うことも多いようです。体質的な問題とは異なりますが、人は病気になると薬を飲んで治療することが多く、このような場合、薬と食べ物との相互作用に気を付けなければなりません。そこで今回は、JAPICにある文献情報や添付文書情報などから、医薬品と食品の相互作用について眺めてみます。

薬と食べ物の相互作用というと、グレープフルーツジュースとカルシウム拮抗剤、納豆とワーファリン等が一般的に知られています。最初に記載したカルシウム拮抗剤は高血圧や狭心症に投与されることが多い薬ですが、相互作用のあるグレープフルーツジュース(以下、“Gジュース”と略す)をキーワードに添付文書情報を調べてみると、その他にも抗癌剤や免疫抑制剤、HIVプロテアーゼ阻害

剤など多数出てきます。これらの添付文書を見ていくと「CYP3A4阻害」が関係していることがわかります。また、添付文書の記載ではGジュースが多いようですが、Gジュースも含めた果実ジュースと薬剤の相互作用について書かれている記事も見られました¹⁾。

この記事では、細胞外から細胞内に薬剤を取り込む有機アニオントランスポーティングポリペプチド(以下、“OATPs”と略す)を取り上げ、OATPsの阻害による相互作用について記述しています。その中では、一部の果実ジュースは消化管粘膜上皮細胞の管腔側膜上にあるOATPsを強力に阻害し、OATPsの基質となる薬剤の吸収が大きく抑制されることがわかっているということで、Gジュースの他、オレンジジュース、アップルジュースの同時飲用および常時飲用の場合について書かれてい

ます。また、患者さんがハッサクを毎日1、2個食べていたことが関与していたと考えられるタクロリムス血中濃度上昇の症例報告もありました²⁾。

この報告では、カンキツ類の中でも血中濃度に影響しないと報告されているスイートオレンジ、温州ミカン、レモンだけは食べてもかまわないと患者さんにご紹介したと書かれています。同じ飲料類ではお茶についての検討もありました。緑茶の他、ウーロン茶、甜茶、杜仲茶など、一般に手に入りやすく、飲んでいる人も多いお茶のCYP3A活性に及ぼす影響について調べている文献でした³⁾。

海外文献では、日本ではあまり一般的ではないですが、クランベリージュースとの相互作用に関する報告がいくつかみられました。食べ物では腸結核治療のため投与されていたイソニアジド(以下、“I”と略す)とヒスチジン含有食品によるヒスタミン中毒の相互作用について報告されているものがありました⁴⁾。

患者さんの入院時の食事を調査したところヒスチジン含有食品のマグロ、ブリ、ハマチ、サバが出されていたことがわかったため、献立を変更しても

らったとあります。実際、Iの添付文書を見ると、食品としてはヒスチジンを多く含有する魚(マグロ等)、チラミンを多く含有する食物(チーズ等)が併用注意として挙げられています。その他、昨今の健康ブームも手伝って健康食品が広く用いられるようになってきているのもあり、健康食品類と薬の相互作用を報告している文献も多く見られました。

上記のような知識は臨床の間では常識なのでしょうが、普段、臨床の間にはない私にとって、改めて確認しなければならない情報でした。また実際の現場では、知っているだけでなく、それを回避するための患者さんへの対応が必要であることもわかり、色々と勉強が必要であることがわかりました。私達がよく口にする飲み物や食べ物でも薬の作用に関わるものがあり、このようなことを気にせず、食生活を送るには、やはり健康であることが大切だと思いました。

《参考文献》

- 1) 日経ドラッグインフォメーション 2008.4、p49-52 後藤道隆 他
果実ジュースで薬剤の吸収が低下 抗アレルギー剤や水溶性β遮断薬の一部では同時摂取を避ける。
- 2) 神経内科 66(6)、p604-605 荒井元美
LETTERS TO THE EDITOR ハッサク摂取によるタクロリムス血中濃度の上昇
—カンキツ類と薬剤の相互作用を患者さんにどう説明すべきか?—
- 3) 医療薬学 32(5)、p392-399 荻窪哲也 他
各種茶飲料が薬物代謝酵素に及ぼす影響 —ヒトCYP3A活性阻害作用の検討—
- 4) 医薬ジャーナル 38(1)、p501-505 菅原和信
特集 集学的治療への薬学的アプローチ 5.相互作用 —症例提示と薬学的対応を中心に—

院内採用医薬品集作成システム (JAPIC PIA) 機能追加!

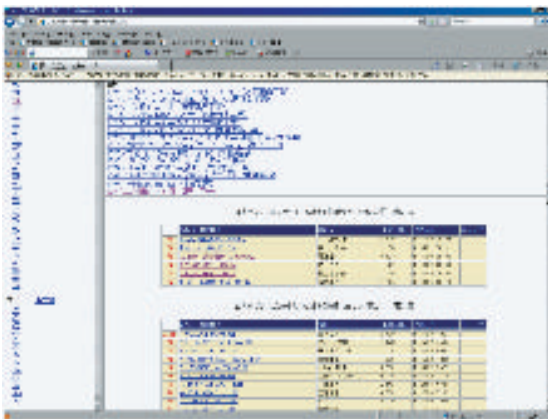
JAPIC PIAは、院内医薬品集を病院内で、低コストで、WORDで簡単に作成することを目的としたシステムです。病院内でのご利用の他、薬局、製薬企業の皆様にもお勧めします。

この度、ご要望の多かった、同一成分逆引き検索Webページ機能を追加いたしました。

1. 同一成分逆引き検索Webページ機能の追加。

現在流通しているすべての医薬品(持参薬)から、同一成分薬が検索できるようになりました。Webページ機能にて、採用薬は院内LAN上で、院外薬については当センター医薬品情報データベース(無料)iyakuSearchに直リンクで、同一成分薬の確認が可能になりました。

1. 同一成分逆引き検索をする。



<Webページ同一成分逆引き検索画面>

2. 採用薬をクリック

・添付文書情報を院内LAN上にて確認できます。

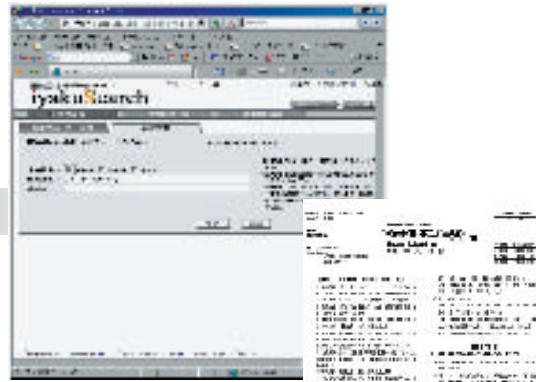


3. 院外薬をクリック

・Web環境であれば、当センター医薬品情報データベース iyakuSearch にて添付文書情報PDFが閲覧できます。

■ iyakuSearch 医薬品情報データベース(無料)

<http://database.japic.or.jp/nw/index>



2. 同一成分院外薬一覧の作成 (院内医薬品集の別紙資料として利用可能)

・先発品・後発品・全てを含む、から抽出選択可能になりました。

- ① 院内の後発品を対象に、先発品のリストを作成。
- ② 院内の先発品を対象に、後発品のリストを作成。



<出力サンプル>



*詳細はJAPICホームページ

<http://www.japic.or.jp/service/cd/japicpia.html>

■ お問い合わせ先(資料請求) 事務局 業務・渉外 (TEL 0120-181-276 FAX 0120-181-461)

「理事会」「評議員会」の概要報告

6月11日(水)に第109回理事会、13日(金)に第23回評議員会が開催されました。議題と主な内容は以下のとおりであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

今回の議題でありました、平成19年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告させていただきました。平成19年度事業報告書・決算報告書は、一般会員(業務担当者)の皆様へお届けいたしました。

「平成20年度第1回理事会(通算第109回)」

6月11日(水) 16:00~17:18/JAPIC会議室

議題

1. 評議員の選任について
2. 役付理事及び常勤役員の選任について
3. 維持会員・賛助会員の異動承認について
4. 平成19年度事業報告の承認について
5. 平成19年度決算報告の承認について
6. 第二期中期3カ年計画の結果報告について

「平成20年度第1回評議員会(通算第23回)」

6月13日(金) 16:00~17:25/JAPIC会議室

議題

1. 理事の選任について
2. 平成19年度事業報告の承認について
3. 平成19年度決算報告の承認について
4. 第二期中期3カ年計画の結果報告について

【役員・評議員の異動】(※敬称略)

《理事》

退任：初山 一登(日本新薬 代表取締役会長)
三塩 晋作(大日本住友製薬 執行役員)
以上 6月13日付

新任：庄田 隆(日本製薬工業協会 会長)
前川 重信(日本新薬 代表取締役社長)
横山 雄一(大日本住友製薬 取締役常務執行役員)
以上 6月14日付

《評議員》

退任：大江 啓(旭化成ファーマ 顧問)
笠茂 公弘(万有製薬 臨床医薬研究所副所長)
古橋美智子(前 日本看護協会 副会長)
以上 6月11日付

新任：稲田 勉(旭化成ファーマ 代表取締役社長)
原 満良(万有製薬 ファーマコビジランスMD室長)
坂本 すが(日本看護協会 副会長)
以上 6月12日付

平成19年度事業及び収支状況の概要

平成19年度は「第二期中期3カ年計画」の最終年度であり、この3カ年間は重点事業6項目を挙げてその達成に取り組んできました。

19年度の新規事業として「JAPIC-QXサービス」を立ち上げ、「Regulations View」のWebでの配信、「重篤副作用疾患別対応マニュアル」及び「日本医薬品名事典」の発刊を行いました。また、「JAPIC PIA(院内医薬品集作成システム)」及び「剤形写真データ」の提供を開始しました。以下、事業及び収支状況の概要を報告します。

〔事業概要〕

1. 添付文書関連情報データベースの整備と内容拡充・普及

「添付文書記載病名データ」における医療用医薬品の効能効果に対応する病名について、19年度に臨床医師・臨床薬剤師の評価を得て大幅に改訂し、本データベースの普及を図っています。また、ユーザの要望を検討した結果、医療用医薬品集の剤形写真は他社から導入し、10月より普及を図りました。今後JAPIC添付文書データと組み合わせる普及を図りたいと考えています。

一般用医薬品の添付文書については、日本製薬団体連合

会の委託を受けて収集、更新を行い(独)医薬品医療機器総合機構へ提供し、ホームページでの公開に協力しています。

2. 医薬品集及び添付文書記載病名集の普及

「医療用医薬品集」、「一般用医薬品集」はJAPICが編集・発行までを行い、丸善で販売するという形態で3年目を迎えました。19年度は両書籍とも9月に2008年版を発刊しました。普及については、書籍離れ等もあり厳しい状況です。またCD-ROM、更新情報についてもシール及びWebで提供しています。

なお、医薬品集の重要事項を抜粋しページ数を半分にし、使い易くした「医療用医薬品集 普及新版2008」を3月に発刊しました。更に医薬品集関係の派生商品として「日本医薬品名事典」を11月に発刊しました。また院内医薬品集作成ツールである「JAPIC PIA」を他社より導入し、7月より普及を図っています。

病名集については、拡張した病名と医薬品の効能効果の関連付けを専門家により評価し、「添付文書記載病名集Ver.2.0」として20年2月に発刊しました。

3. 医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス) の充実

医薬文献・学会情報速報サービス(JAPIC-Qサービス)は19年度から基本料金を下げ、ユーザに還元しました。また、製薬会社等利用者の要望に応じてキーワードを追加しました。20年3月末の利用機関数は141社、167部署です。提供学会数は延べ5,115学会であり、順調に推移しています。また19年4月からQエクストラサービス(QXサービス)を開始し、ユーザの個別の要望に応じています。

4. iyakuSearchの充実と普及促進

iyakuSearchは管理系等のシステムの改良を終えました。「医薬文献情報」の検索結果から(独)科学技術振興機構(JST)提供J-STAGE中の電子ジャーナルへのリンク機能追加作業も終了しました。一部検索系の改善は今後の課題です。なおiyakuSearchのアクセス数は17年度16万、18年度22万と増えてきましたが、19年度のアクセス数は21万とフラットになりました。

また、昨年に引き続き要望のあった大学に積極的に出向き講演、実演を行い更に学会等でも資料を提供し普及に努めました。

コンテンツ(医薬文献情報、学会情報、医療用医薬品添付文書情報、一般用医薬品添付文書情報、臨床試験情報、日本の新薬)については、随時更新作業を行っています。

5. 規制措置情報(JAPIC Daily Mailサービス)のWeb発信

外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報(JAPIC Daily Mail)として、製薬企業会員に対し国外6か国、EU、WHO及び国内の規制当局が発信する計78のWebサイトについて調査、毎日電子メールで提供しています。20年3月末現在、141社へ送信しています。また、ユーザから社内転送の強い要望があり、19年4月より実施し、有料で約20社が利用されています。

なお、19年4月よりRegulations View(海外規制情報 米国編)を月刊誌からWeb配信に切り替えましたが移行はスムーズに行え、毎月末順調に提供しています。今後は新規ユーザの獲得に取り組みます。

6. 研究開発情報の充実

研究開発情報提供の新規事業として昨年に続き新薬審査報告書集(日本の新薬)21~25巻を5月に発刊しました。また臨床試験情報(JAPIC-CTI)は登録数が527(うち英語でも209)に、結果数が22(うち英語でも4)となり、またデータベースへのアクセス数も増加してきました。

〔収支状況概要〕

19年度における収入及び支出の合計額は共に14.8億円でありました。前年度は6千万円の収入超過であったので少し悪化しました。このうち、事業活動収支は、収入が14.4億円、支出が11.5億円と、2.9億円の収入超過であり順調に推移しました。主な増減要因としては、医薬文献・学会情報速報サービス収入(JAPIC-Q)が、基本料金の値下げや検索式ごとの重複ヒット文献の取り扱いの変更により減収となりました。逆に、医薬文献・学会情報(JAPICDOC等)や添付文書情報のデータベース収入、外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報収入(JAPIC DailyMail)及び医薬品類似名称検索サービス収入等は伸びました。一方、投資活動収支は3億円の支出超過でありましたが、そのうち2億円は財団内に積み立てており、全体としては一定の結果を出した決算となりました。

◆ 平成19年度 収支計算書

(単位:千円)

収入	金額	支出	金額	差引額
基本財産運用収入	(1,120) 930	事業費支出	(996,759) 1,028,599	/
特定資産運用収入	(51,291) 44,691	管理費支出	(147,644) 123,852	
会費収入	(473,191) 469,658	その他支出	(29,745) —	
事業収入	(986,664) 924,814	固定資産取得支出	(89,023) 98,534	
雑収入	(4,984) 6,644	特定資産取得支出	(200,000) 230,000	
特定資産取崩収入	(6,642) 30,000			
計	(1,523,892) 1,476,737	計	(1,463,171) 1,480,985	(60,721) △4,248

()は、前年度の数値である。

【新着資料案内 平成20年6月5日～平成20年7月4日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

＜配列は書名のアルファベット順＞

書名	出版社名	出版年月	ページ	定価
医療従事者のための医薬品包装・管理ハンドブック 著者名/医薬情報研究所 編	じほう	2008年	778p	¥9,030
化学工業会社録2008年版 著者名/化学工業日報社	化学工業日報社	2007年	1,401p	¥34,650
MIMS New Ethicals JUL-DEC 2008 Issue 9 著者名/Elizabeth Donohoo ed.	CMPMedica (NZ) Ltd.	2008年	707p	
モノグラフ臨床脳波を基礎から学ぶ人のために 著者名/日本臨床神経生理学学会認定委員会 編	日本臨床神経生理学学会	2008年	209p	
Red Book Pharmacy's Fundamental Reference 2008 Edition 著者名/Thomas F. Rice	Thomson Healthcare	2008年	1,012p	¥9,208
最近の新薬 2008 (薬事日報版 2008年度版) 著者名/薬事日報社 編	薬事日報社	2008年	313p	¥4,515
成人院内肺炎診療ガイドライン 日本呼吸器学会「呼吸器感染症に関するガイドライン」 著者名/日本呼吸器学会「呼吸器感染症に関するガイドライン」作成委員会 編	日本呼吸器学会	2008年	72p	¥3,000
消費者くすり相談のあり方に関するシンポジウム記録 著者名/日本製薬工業協会くすり相談対応検討会	日本製薬工業協会	2008年	23p	
特定保険医療材料及びその材料価格 材料価格基準早見表 平成20年4月版 著者名/メディカルデータ 編	じほう	2008年	1,026p	¥21,000

情報提供一覧

【平成20年7月1日～7月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
＜出版物等＞		＜iyakuSearch＞ Free	http://database.japic.or.jp/
1. 「医薬関連情報」7月号	7月25日	1. 医薬文献情報	月1回
2. 「Regulations View Web版」No.155	7月25日	2. 学会演題情報	月1回
3. 「重篤副作用疾患別対応マニュアル」第2集	7月25日	3. 医療用医薬品添付文書情報	月2回
4. 「日本の新薬-新薬承認審査報告書集-」26～30巻	7月25日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月1回
5. 「病名適応医薬品集-病名から薬がわかる本-」2008	7月31日	5. 臨床試験情報	随時
6. 「添付文書入手一覧」2008年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月25日	6. 日本の新薬	随時
7. 「JAPIC NEWS」No.292	7月25日	7. 学会開催情報	月2回
8. JAPIC「医療用医薬品集」2008更新情報2008年7月版	毎月末日	8. 医薬品類似名称検索	随時
＜医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等＞… FAX、郵送、電子メール等で提供		＜iyakuSearchPlus＞	http://database.japic.or.jp/nw/index
1. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.642-646	毎週	1. 医薬文献情報プラス	月1回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎週	2. 学会演題情報プラス	月1回
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1742-1763	毎日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月1回
5. JAPIC Weekly News No.162-166	毎週木曜日	外部機関から提供しているJAPICデータベース	
6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.249-252	毎週月曜日	＜JIP e-infoStreamから提供＞	https://e-infostream.com/
7. 「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	＜JST JDreamIIから提供＞	http://pr.jst.go.jp/jdream2/
8. JAPIC「医療用医薬品集」2008更新情報2008年6月版	毎月10日		

医療用医薬品集2009 〈検索用CD-ROM付〉



■本書の特長

- ◆34年の実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品を網羅
- ◆検査用CD-ROM (非インストール版) 付
- ◆綴込み葉書で、便利な「薬剤識別コード一覧」
(冊子。別売2,940円税込)をプレゼント
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供 (要登録)
- ◆シールタイプの更新情報サービス (有料)

■検索用 (非インストール版) CD-ROMとは

- ◆収録内容

◎医療用医薬品集	◎薬価情報
◎一般用医薬品集	◎後発品の全情報
◎薬剤識別コード一覧	

定価:8,000円 (税込) (*インストール版は15,000円 (税込) で別途販売しております。)

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行

13,650円 (税込)

B5判/約3,300頁

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。
リフレッシュどうぞ!!



きく科アザミ属。薊。園芸品種が数多くある (写真は楽音寺か)。対象性はくずれているが、タンポポに負けない美しい果実 (種子) をつける。神奈川県にあざみ野という町がある。町の名前は、鶴見川の支流、早淵川 (町田市に源流) 流域に多いあざみに因んで、地元の要望でつけられたとか。 (ks)

あざみ